



2025年2月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2025年1月10日

上場会社名 株式会社ツインバード 上場取引所 東
 コード番号 6897 URL <https://www.twinbird.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 野水 重明
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役企画管理本部本部長 (氏名) 渡邊 桂三 TEL 0256-92-6111
 配当支払開始予定日 -
 決算補足説明資料作成の有無 : 有
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年2月期第3四半期の業績 (2024年3月1日～2024年11月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-----------------|------|----------------------------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2025年2月期第3四半期 | 6,690 | △3.8 | △398 | — | △347 | — | △208 | — |
| 2024年2月期第3四半期 | 6,952 | — | △295 | — | △249 | — | △183 | — |
| | 1株当たり 四半期純利益 | | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 | | | | | |
| | 円 銭 | | 円 銭 | | | | | |
| 2025年2月期第3四半期 | △19.56 | | — | | | | | |
| 2024年2月期第3四半期 | △17.23 | | — | | | | | |

当社は、2024年2月期第1四半期から非連結での業績を開示しております。そのため、2024年2月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|---------------|--------|-------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 2025年2月期第3四半期 | 10,944 | 7,756 | 70.9 | 727.66 |
| 2024年2月期 | 11,213 | 8,189 | 73.0 | 769.32 |

(参考) 自己資本 2025年2月期第3四半期 7,756百万円 2024年2月期 8,189百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2024年2月期 | — | 3.00 | — | 10.00 | 13.00 |
| 2025年2月期 | — | 3.00 | — | | |
| 2025年2月期 (予想) | | | | 10.00 | 13.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年2月期の業績予想 (2024年3月1日～2025年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|--------|-----|------|------|------|-----|-------|------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 10,500 | 1.9 | 200 | 77.0 | 180 | 8.4 | 130 | 20.4 | 12.22 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料7ページ「2. 四半期財務諸表及び主な注記 (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

| | | | |
|------------|-------------|------------|-------------|
| 2025年2月期3Q | 10,906,300株 | 2024年2月期 | 10,906,300株 |
| 2025年2月期3Q | 246,629株 | 2024年2月期 | 261,129株 |
| 2025年2月期3Q | 10,653,871株 | 2024年2月期3Q | 10,634,091株 |

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する意見や予測等は資料作成時点で一般に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されており、その情報の正確性を保証するものではなく、今後予告なしに変更される可能性があります。万が一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切責任を負いませんのでご承知おきください。業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用にあたっての注意事項は、2ページ以降をご覧ください。
- ・四半期決算短信の開示とあわせて、決算補足説明資料を開示しております。

○添付資料の目次

| | |
|----------------------------------|---|
| 1. 経営成績等の概況 | 2 |
| (1) 当四半期の経営成績の概況 | 2 |
| (2) 当四半期の財政状態の概況 | 2 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期損益計算書 | 6 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 7 |
| (四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記) | 7 |
| (セグメント情報等の注記) | 7 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) | 8 |

1. 経営成績等の概況

（1）当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、インバウンド需要の拡大や半導体の供給制約の緩和などにより、景気は緩やかな回復傾向にあります。一方で、エネルギー資源の高騰やドル円相場の円安進行による物価高騰・実質賃金の低下などにより個人消費の回復が遅れており、依然として先行きは不透明な状況にあります。

このような経営環境の中、当社の当第3四半期累計期間における業績につきましては、大型OEM製品の出荷が前期に完了したことに加え、FPSC製品の需要が減少したことにより、前年同期比減収減益となりました。

一方、当第3四半期会計期間（9～11月）の売上高は、収益性の高いD2C、インバウンド需要に対応したホテル向け製品、病院向け業務用冷蔵庫の売上が増加し前年同期比増収となり、利益面におきましては円安による原価高騰等の影響を受けているものの、原価低減の推進、販売費及び一般管理費の抑制により、前年同期より営業損失を圧縮し、回復基調であります。

当社の当第3四半期累計期間における売上高は6,690百万円となり、前年同期比△3.8%の減収となりました。利益面につきましては、営業損失は398百万円となり、前年同期比103百万円の損失増加、経常損失は347百万円となり、前年同期比97百万円の損失増加、四半期純損失は208百万円となり、前年同期比25百万円の損失増加となりました。

セグメント別の業績は、次のとおりであります。

① 家電製品事業

家電製品事業におきましては、大型OEM製品の出荷が前期に完了した影響により売上高は前年同期より減収となり、また歴史的な円安水準の長期化による原価高騰等のため、セグメント利益は前年同期より減益となりました。

この結果、家電製品事業の当第3四半期累計期間における売上高は6,439百万円となり、前年同期比△0.5%の減収、セグメント利益は186百万円となり、前年同期比△25.4%の減益となりました。

※ 家電製品事業に関する業績の特性について

家電製品事業につきましては、年末年始商戦や新生活商戦における販売需要が最も多くなるため業績に季節的変動があり、売上高及び利益は第4四半期に集中する傾向があります。

② FPSC（フリー・ピストン・スターリング・クーラー）事業

FPSC事業につきましては、冷凍機単体を供給する海外大手取引先の在庫調整による出荷減少に加え、ワクチン運搬庫のメンテナンス（リフレッシュサービス）需要が一巡したため、前年同期より減収減益となりました。

この結果、FPSC事業の当第3四半期累計期間における売上高は250百万円となり、前年同期比△48.2%の減収、セグメント利益は21百万円となり、前年同期比△82.8%の減益となりました。

（2）当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末の総資産は10,944百万円となり、前期末比268百万円減少いたしました。新生活商戦の売上債権の回収が進み、受取手形、売掛金及び契約資産が667百万円減少しております。一方、年末商戦の売上増加に備え商品及び製品が153百万円増加、サプライチェーンマネジメントシステムの導入に伴い無形固定資産が218百万円増加しております。

負債は3,188百万円となり、前期末比164百万円増加いたしました。主な内訳は、短期借入金が増加、長期借入金及び172百万円の減少、その他に含まれる未払金が136百万円の減少であります。

純資産は7,756百万円となり、前期末比433百万円減少いたしました。2024年5月定時株主総会で決議いたしました資本金の額の減少等に伴い、資本金が2,424百万円減少し、資本剰余金が2,430百万円増加しております。また利益剰余金が配当と四半期純損失の計上により350百万円減少しております。一方、円相場の変動と為替予約の消化に伴い繰延ヘッジ損益が80百万円減少しております。

これらの結果、自己資本比率は70.9%（前期末比△2.2pt）となりました。資本コストを意識した経営の実現に向け、段階的に資産の圧縮や適切な財務レバレッジの活用を進めてまいります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

私たちの強みは、TWINBIRDブランドのもと、商品開発型企業として自社工場を含め、企画・開発からアフターサービスまでのバリューチェーンを有しており、加えて、全国でも屈指のものづくりの町である新潟県燕三条地域の協力企業をはじめとする経営資源に恵まれ、お取引先企業と共創の精神をもって新たな付加価値を生み出すことができることです。中期経営計画（2023-2025）では、需要の大きな生活必需品カテゴリーに、ツインバードの独自性あふれる製品を少人数世帯の生活者に向けて小型から中型までのラインナップで拡充することにより、市場における独自のポジショニングを確立してまいります。昨年発表した2030年を見据えた長期ビジョン「VISION2030「お客様満足No.1」のその先へ～燕三条発のイノベーションで、世界中の人々に持続可能な幸せを提供するブランドになる～」実現のため、中長期的な事業成長に向けた新たな取り組みや戦略的投資を継続してまいります。

① 家電製品事業

売上高につきましては、年末商戦において前年比増収と堅調に推移したことに加えて、これからの最大の需要期である新生活商戦において、引き続き販売好調な匠プレミアムブランドライン製品に加え、単独少人数世帯向け家庭用冷凍冷蔵庫及び炊飯器や電子レンジ、全自動洗濯機の新製品投入によるラインナップ強化で売上の拡大を図ります。またインバウンド宿泊需要で好調なホテル向け製品や、入替え需要が回復している病院向け業務用冷蔵庫、デベロッパー向け浴室テレビなどについて、決算期末需要で売上の増加が見込まれることから、前期比増収となる見込みであります。

利益面につきましては、当社の強みであるギフト及びソリューションの販売チャネルの底堅い利益貢献に加え、販売好調な調理家電を中心に大幅な原価低減を推進し、変動費率を低減して損益分岐点を大幅に引き下げることで、前期比増益となる見込みであります。

② FPSC事業

FPSC事業において注力する4分野のうち、特に「医薬・バイオ」分野の成長を想定しております。今後成長するバイオ医薬品市場における搬送・保管には、厳密な温度管理（冷凍-20～-40℃、極冷凍-70～-85℃）のコールドチェーン構築が不可欠となります。FPSCの独自技術がグローバル市場でも高く評価され、燃油計測機や校正器などの分野において、欧米を中心に複数の企業と契約向け開発着手しております。

また、ワクチンを適切な温度で保管するための冷凍庫に対して、世界保健機関（以下、WHO）が定める医療機材品質認証（Performance, Quality and Safety, 以下、PQS）を、2024年10月に取得しました。SC-DF25P（製品名：ディープフリーザーP）がWHOのPQSカタログに掲載され、各国で医療機材を選定する際の基準となっております。PQS認証のカテゴリー：E003 ワクチン冷凍庫・ワクチン冷蔵庫においては日本初、また全カテゴリーを通じても国内3例目となります。今回のPQS認証取得の実績を通じて、UNICEFなど国連関係機関をはじめ、大手NGOや慈善団体の機材選定基準を満たすことで、ワクチン運搬庫の国内及び海外販売活動を強化してまいります。

当社は今後もSDGsの一つである「すべての人に健康と福祉を」の達成に向けて、厚生労働省向け可搬型武田モデルナ社製ワクチン用低温冷凍庫（出荷累計 約12,000台）によるコールドチェーン構築実績を活かし、国内外のネットワークを通じグローバル規模での最新技術に基づくコールドチェーンの構築や医療サービスの拡充に参画し、当社FPSC技術が医療分野でスタンダードの一つとなるよう取り組んでまいります。

通期業績予想につきましては、前期決算短信発表時（2024年4月12日）に公表しました通期業績予想数値より変更ありません。売上高は10,500百万円（前期比+1.9%）、営業利益は200百万円（前期比+77.0%）、経常利益は180百万円（前期比+8.4%）、当期純利益は130百万円（前期比+20.4%）を予想しております。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年2月29日) | 当第3四半期会計期間 (2024年11月30日) |
|----------------|-----------------------|-----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 871,349 | 835,567 |
| 受取手形、売掛金及び契約資産 | 1,942,268 | 1,274,703 |
| 商品及び製品 | 2,126,592 | 2,280,585 |
| 仕掛品 | 352,364 | 417,873 |
| 原材料及び貯蔵品 | 542,810 | 592,506 |
| その他 | 494,621 | 379,406 |
| 流動資産合計 | 6,330,006 | 5,780,643 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物及び構築物 | 4,460,606 | 4,455,378 |
| 減価償却累計額 | △3,317,625 | △3,360,159 |
| 建物及び構築物（純額） | 1,142,980 | 1,095,219 |
| 機械及び装置 | 546,741 | 546,741 |
| 減価償却累計額 | △478,243 | △488,415 |
| 機械及び装置（純額） | 68,498 | 58,326 |
| 金型 | 1,827,737 | 1,869,256 |
| 減価償却累計額 | △1,614,931 | △1,635,065 |
| 金型（純額） | 212,806 | 234,190 |
| 工具、器具及び備品 | 580,042 | 588,154 |
| 減価償却累計額 | △484,180 | △506,580 |
| 工具、器具及び備品（純額） | 95,862 | 81,574 |
| 土地 | 2,070,465 | 2,055,243 |
| 建設仮勘定 | 11,438 | 8,776 |
| その他 | 974,800 | 1,004,288 |
| 減価償却累計額 | △925,123 | △940,928 |
| その他（純額） | 49,677 | 63,360 |
| 有形固定資産合計 | 3,651,729 | 3,596,690 |
| 無形固定資産 | 494,073 | 713,011 |
| 投資その他の資産 | | |
| 投資有価証券 | 290,704 | 287,146 |
| その他 | 446,690 | 567,307 |
| 投資その他の資産合計 | 737,394 | 854,454 |
| 固定資産合計 | 4,883,197 | 5,164,155 |
| 資産合計 | 11,213,203 | 10,944,799 |

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2024年2月29日) | 当第3四半期会計期間 (2024年11月30日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 支払手形及び買掛金 | 318,763 | 258,150 |
| 短期借入金 | 700,000 | 1,300,000 |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 230,000 | 230,000 |
| 未払法人税等 | 64,789 | — |
| 賞与引当金 | 54,689 | 11,579 |
| 株主優待引当金 | 7,542 | 7,542 |
| 災害損失引当金 | 17,788 | — |
| その他 | 808,473 | 776,594 |
| 流動負債合計 | 2,202,046 | 2,583,866 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 460,000 | 287,500 |
| 退職給付引当金 | 175,351 | 139,262 |
| 役員株式給付引当金 | 79,140 | 93,010 |
| 資産除去債務 | 20,100 | 20,100 |
| その他 | 86,972 | 64,489 |
| 固定負債合計 | 821,564 | 604,361 |
| 負債合計 | 3,023,611 | 3,188,228 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,524,398 | 100,000 |
| 資本剰余金 | 2,619,588 | 5,049,944 |
| 利益剰余金 | 2,893,119 | 2,543,055 |
| 自己株式 | △108,169 | △107,007 |
| 株主資本合計 | 7,928,937 | 7,585,993 |
| 評価・換算差額等 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 102,924 | 93,040 |
| 繰延ヘッジ損益 | 157,730 | 77,537 |
| 評価・換算差額等合計 | 260,654 | 170,577 |
| 純資産合計 | 8,189,592 | 7,756,571 |
| 負債純資産合計 | 11,213,203 | 10,944,799 |

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

| | 前第3四半期累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日) | 当第3四半期累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日) |
|--------------|--|--|
| 売上高 | 6,952,807 | 6,690,409 |
| 売上原価 | 4,755,266 | 4,828,352 |
| 売上総利益 | 2,197,540 | 1,862,056 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,492,570 | 2,260,403 |
| 営業損失(△) | △295,029 | △398,346 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 19 | 12 |
| 受取配当金 | 2,413 | 2,098 |
| 為替差益 | 40,033 | 44,442 |
| 補助金収入 | 3,209 | 4,632 |
| 業務受託料 | 3,429 | 4,412 |
| その他 | 7,157 | 7,644 |
| 営業外収益合計 | 56,262 | 63,242 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 6,242 | 8,440 |
| 業務委託費用 | 3,389 | 3,418 |
| その他 | 1,346 | 683 |
| 営業外費用合計 | 10,977 | 12,542 |
| 経常損失(△) | △249,744 | △347,647 |
| 特別利益 | | |
| 投資有価証券売却益 | 7,940 | 75,724 |
| 特別利益合計 | 7,940 | 75,724 |
| 特別損失 | | |
| 固定資産売却損 | — | 16,712 |
| 固定資産処分損 | 780 | 4,635 |
| 特別損失合計 | 780 | 21,348 |
| 税引前四半期純損失(△) | △242,584 | △293,271 |
| 法人税等 | △59,308 | △84,843 |
| 四半期純損失(△) | △183,276 | △208,428 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理に関する注記)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積もり、税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。なお、法人税等調整額は、法人税等を含めて表示しております。

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期累計期間（自 2023年3月1日 至 2023年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|------------|---------|-----------|----------|---------------------|
| | 家電製品 事業 | FPSC事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 6,469,141 | 483,665 | 6,952,807 | — | 6,952,807 |
| その他の収益 | — | — | — | — | — |
| 外部顧客への売上高 | 6,469,141 | 483,665 | 6,952,807 | — | 6,952,807 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 6,469,141 | 483,665 | 6,952,807 | — | 6,952,807 |
| セグメント利益 | 250,270 | 123,558 | 373,829 | △668,858 | △295,029 |

(注) 1. セグメント利益の調整額△668,858千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期累計期間（自 2024年3月1日 至 2024年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | 調整額 | 四半期 損益計算書 計上額 |
|-----------------------|------------|---------|-----------|----------|---------------------|
| | 家電製品 事業 | FPSC事業 | 計 | | |
| 売上高 | | | | | |
| 顧客との契約から生じる収益 | 6,439,977 | 250,432 | 6,690,409 | — | 6,690,409 |
| その他の収益 | — | — | — | — | — |
| 外部顧客への売上高 | 6,439,977 | 250,432 | 6,690,409 | — | 6,690,409 |
| セグメント間の内部売上高 又は振替高 | — | — | — | — | — |
| 計 | 6,439,977 | 250,432 | 6,690,409 | — | 6,690,409 |
| セグメント利益 | 186,815 | 21,208 | 208,024 | △606,370 | △398,346 |

(注) 1. セグメント利益の調整額△606,370千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門の一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業損失と調整をおこなっております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

| | 前第3四半期累計期間 (自 2023年3月1日 至 2023年11月30日) | 当第3四半期累計期間 (自 2024年3月1日 至 2024年11月30日) |
|-------|--|--|
| 減価償却費 | 308,024千円 | 234,872千円 |